

◆ 平成22年度(1月～3月) 研究会計画:開催地とテーマ一覧 ◆

研究会名	開催日	場所	テーマ
交通・電気鉄道	2月1日	名古屋	【交通・電気鉄道/フィジカルセンサ合同】 鉄道におけるセンサ技術, 鉄道一般
金属産業 一般産業	1月22日	東京	工場電気設備の診断・更新に関する課題と将来展望
回転機	1月28,29日	愛知	【マグネティックス/静止器/回転機合同】 電磁界数値計算技術とその応用
半導体電力変換	1月28,29日	京都	半導体電力変換一般
	3月4,5日	福岡	【電力技術/電力系統技術/半導体電力変換合同】 電力技術一般ならびに半導体電力変換技術一般
産業電力電気応用 生産設備管理			
産業計測制御	3月3日	神奈川	情報知能システムとその産業応用
	3月8,9日	東京	モーションコントロール, センサ応用, 信号処理応用, 生体信号処理など
産業システム情報化	3月12日	沖縄	OKINAWA型ロボット・組み込みシステム
	3月15日	大阪	技能の情報化および製造業における技術継承
リニアドライブ	3月4,5日	東京	リニアドライブ一般
ITS			
公共施設 自動車	2月5日	名古屋	自動車用電源技術

〈注1〉ここに掲載しました予定は、2009年11月時点の計画です。変更される場合がありますので、最新情報は、電気学会本誌およびホームページ(<http://www2.iee.or.jp/ver2/honbu/15-research/index.html>)を参照ください。

〈注2〉発表申込締切は開催日の2～3ヶ月前、研究会資料の原稿締め切りは1ヶ月前です。詳細はホームページを参照してください。

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年は無人補給機 (HTV) やまいど1号など、宇宙分野でも日本の高い技術力が評価された1年でもありました。今年も、地球温暖化対策をはじめとした様々な分野においても日本の高い科学技術力が世界に発信され、評価される1年になるように期待しています。

今月号の巻頭言は、産業応用部門国際化担当役員の京都大学の引原先生に「部門国際化委員会の報告」と題しまして、国際化委員会設置の歴史からこれまでの活動報告と成果、今後の指針についてご執筆いただきました。

資料コーナーでは、「日本がリードする21世紀の革新素材 “炭素繊維”」について日立製作所の高濱氏にご紹介いただきました。軽くて強い構造素材である炭素繊維を自動車や飛行機などに使用した場合、LCAで考えると大きなCO<sub>2</sub>削減効果が見込まれます。日本がリードするこの新素材の需要が益々増加することで、低酸素社会実現に大きく貢献でき、地球温暖化対策に対しても世界をリードできるようになると期待しています。

学界情報では、2009年9月にカリフォルニア州サンノゼで開催されたIEEE ECCE2009のレポートを豊田工業高等専門学校の加納先生に、2009年10月にテキサス州ヒューストンで開催されたIEEE IAS2009のレポートを徳島大学の山本先生にそれぞれご執筆いただきました。両会議において多くの日本の研究が評価され、授賞されたことは大変喜ばしいことだと思います。

その他では、回転機技術委員会主催の産業応用フォーラム「同期機固定子鉄心の損失低減技術」の案内を掲載しております。多数の方の参加をお待ちしております。

ご多忙中にも関わらず、今月号のために記事をご執筆いただいた皆様、ならびに編集作業に携わっていただきました多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

これからは新型インフルエンザだけでなく季節性インフルエンザも流行してくると思います。読者の皆様におかれましては、体調管理に十分注意していただき、良き1年のスタートをきっていただきたいと思います。

エディタ 道平 雅一 (神戸市立工業高等専門学校)

※本文中のE-mailアドレスをご利用になる場合は、“(at)”を“@”に置き換えて下さい。